

総務文教常任委員会活動レポート

開催日：令和5年8月24日(木)

開催場所：1・2号委員会室

総務部

1. 防災について

(1) 災害備蓄品保管庫の新規賃貸借について

災害備蓄品保管庫として、NTT中標津ビルと5年間の賃貸借契約を交わしたとの報告を受けました。保管庫の広さは20.31㎡で、主に飲料水・食品等の備蓄がされます。

【主な質疑】

委員：ここに保管している備蓄品の災害発生時配布地区は考えていますか？

担当：特定地区のための備蓄品とは考えていません。

委員：賃貸借契約期間終了後も、継続した契約を考えていますか？

担当：相手側の契約可能期間が最長5年間でしたが、継続した契約を見込んでいます。

(1) 株式会社高橋工業との防災協定について

令和5年8月1日に株式会社高橋工業様（別海町）より、中標津町内に所有のHOTEL KUTEKUNを災害時に活用することで、町の防災体制強化に貢献したいとの提案をいただき、要配慮者の避難場所としての宿泊施設の活用について、既存の中標津町旅館組合の協定に加えて締結するもので、締結式は令和5年8月31日の予定です。

【主な質疑】

委員：福祉避難所に指定されているプラット（総合福祉センター）との兼ね合いはどのようになりますか？

担当：プラットには特に症状の重い方や重篤な方に活用いただく考えです。

委員：災害発生時には町の担当者が要配慮者と認定するのですか？

担当：保健師が各避難所を巡回し対応していきます。

2. 大学交流推進事業について

事業目的は6月の活動レポートでお知らせしたとおり、今月は各事業の進捗状況について説明を受けました。

(1) 旭川市立大学

看護師を目指す高校生との座談会が、8月13日（日）総合福祉センター（プラット）で開催され、町立病院看護師2名、旭川市立大学看護学生2名、高校生3名の参加により実施されました。

(2) 中央コンピューターサービス株式会社

「地域活性化に力を入れたい自治体」と「未来を担う若者」のマッチングを目的として、全国の大学から参加大学生を募集し、「ミチシロカ in 北海道中標津町」の開催準備を進め、「みんなが主役になる地域（まち）づくり」をテーマに、学生たちが自ら考えフィールドワークを行い、当町の課題や魅力を町へ提案する「成果発表会」を行います。

参加学生は、関西大学、高知大学、琉球大学等全国の大学から集う15名で、8月29日から31日にかけてフィールドワークを行い、9月1日に成果発表会を実施します。

(3) 小樽商科大学他

小樽商科大学、千葉大学、熊本大学、室蘭工業大学、函館高専、北陸先端科学技術大学の学生が16～17名来町し、中標津町や周辺地域でフィールドワークを行い、課題発見や解決策の検討、ビジネスアイデアの着想に至るプロセスを学び発表を行います。9月5日から7日にかけてフィールドワークを行い、来年2月～3月に中標津町内にて、町民にも参加を呼びかけ最終発表を行う予定です。

【主な質疑】

委員：6月の補正予算時、旭川市立大学の看護学生4～5名参加の予定が、2名になった理由を教えてください。

担当：大学の試験と重なり参加できなくなったと聞いています。事前に試験の日程はわからなかったようです。

委員：中央コンピューターサービス株式会社の主催事業で募集人数は当初5人でしたが、実際は15人になっています。不足分の費用はどこが負担しますか？

担当：事業主体は中央コンピューターサービス株式会社です。学生には交通費や宿泊費の負担はさせないとのことで、事業主が負担します。

委員：参加学生の大学での専攻はどのようなものでしょうか？

担当：医学部や人文学部、物理学部、法学部、地域創造学部等となっています。